

☆私の意見

# 神戸の文化に 誇りを

吉井 順一

〈能楽師〉



十月十日、神戸文化ホールで恒例の「神戸能」が行われますが、今年で四回目になります。湊川神社の能楽堂も来年五周年を迎えますし、学生能も四年になり、幸い県や市からのご理解もいただき、神戸で能らしい能が出来るようになったのはここ四、五年のことですね。

明石、須磨、生田神社などには古典の名所旧蹟がありますし、一方国際都市ということで神戸には近代的な文化の移入もあります。その両者がかみ合って他にはないエネルギーな文化が創り出されたと思います。能もそういう文化全体のなかの古典としてとらえないといけませんね。古典をやる人間は古典的なものをつかむ人間であり近代的なものもマスターする人間でないといふ古典の進展はないですね。能だからといって古典の枠に縛られるのじゃなくてもっと視野を広げることが大切です。

「神戸能」は一般の方々に能というものを知って貰うための呼びかけとしてやっています。また、学生能は中学生ぐらいから古典を理解して貰い、底辺を広げようとしてやっています。古典は一年や二年で修得出来ません。十年、二十年の積み重ねがあつてはじめて盛り上つたものになるものです。その意味でも若いうちから古典を勉強することは大切なことです。

能というものをこれからもPRして行かなければならないと思いますが、一方、能を演じる者の舞台での芸の内容が一番大切です。神戸観世会としても芸をみがき人間性を深め、もっと成長しなければいけませんね。

神戸でなければ、創れない文化があると思います。古典の生きる土壌と近代的な文化とがうまくミックスしている神戸は文化の土壌として誇れると思います。明るくのびのびとした文化を創り出せる「神戸人」であることに若い人たちも誇りをもって欲しいですね。

自分自身だけではなく、芸を大切に、他人を大切に、町を大切にすること。目先の利害だけにとらわれることなく、お互いに文化をよくする気構えをもたないと文化は盛り上がりません。

(談)

# 美術 古骨 剣書 刀画



110,000円

伊万里赤絵花生

鑑定 買入  
刀剣研磨その他工作  
一ヵ月仕上 是非ご用命下さい

神戸市生田区元町通6丁目25番地

刀 剣  
古 美術  
骨 董

元所美術

〒650

TEL078-351-0081

スイートなチョコレートを  
コーティングした  
ロマンチックな  
パピヨットです。



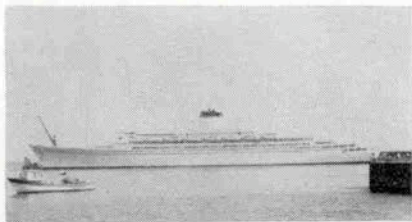
チョコレートパピヨット



神戸 風月堂

本社 神戸元町3丁目 ☎(078) 391-2412

# 随想



レオナルド・ダ・ビンチ号

## 台湾、夏の旅

—兵庫県生物学会

創立30周年記念研修旅行—

### 当津 隆

△夢野台高校教諭・県生物学会理事長▽

バシー海峡に面したガラランビ岬にある懇丁熱帯植物園と二四〇〇の阿里山を主とした植物、昆虫などの研究調査を試みた。総勢六十一名、一週間の旅であった。ポルトガルの航海者が、イリヤ、フォルモサと呼んだように麗しの美しい緑の島であった。山野には、リュウガンやレイシがたわわにみのり、バナナ、パイア、マンゴー、パンノキなどが自生しているさまは、食糧問題を心配する国か

らみれば、夢のようなことであろう。タケも多い。とくに麻竹のタケノコの出荷量はすごい。日本で食べる中華料理のタケノコの殆どは、この麻竹であるという。台湾のタケは生活のすみずみまでいきわたって、竹文化をつくりあげているようだ。建築現場の足場も、タケを組んだもの。編笠もタケの葉である。街路樹の雄大さはまたみごとである。広い道路の真中あたりまで梢がのびあつて、みどりのトンネルをつくっているマクマオウをはじめ、どの樹々もゆつたりと大きい、レモンユーカリの並木道も印象に残る美しい景観であった。バリやロンドンの美しい街路樹とはまた違った野生的な美である。

阿里山は「高山青」の歌で知られた多彩な美しい山だった。世界でも珍しい山岳鉄道が山肌をぐるぐるまわりながら、素堀りのトンネルを抜け、スイッチバック式で



樹々が美しい台湾で。右当津氏

登っていく、蒼然たる熱帯植物相から亜熱帯植物相へと変化がはげしく、温帯林に入ると、六甲山や但馬の山々とよく似た様相があらわれたりして、植物に興味をもつものには、こたえられないたのしみであった。また、道端からジンジャの香りが流れてきたり、背丈ほどのポインセチアにびっくりしたり、南の国のムードいっぱいである。

話をかえよう。

いま、台湾は準戦時体制とこのとだ、旅人にとっては、戦う台湾の様相にふれることは少ないが、台北の空港で、植物採集用の日本の古新聞を全部没収されてしまったり、行軍する兵隊さんであったり、国威高揚べったりのテレビの最終の時間帯にびっくりしたりしていると、日の丸や地球を写し出すNHKのフィナーレに見馴れているわれわれには、異様な興奮を覚えるのであった。

「母忘在莒」というスローガンによくでくわした。昔、斉という国が燕という国に攻められ、七十二の城を奪われたが、斉国は残った小さな莒州の城にたてこもり、艱難辛苦に堪えて、遂に失地挽回、燕の国を滅ぼしたという歴史上の物語から、台湾は現在、莒の城にあることを忘れてはならないというこらししい、また、自らを強く



することが、他からの尊敬をうることだという意味の「自強敬莊」というスローガンも旅のおもいでの一つである。

## 夢の船旅 ダ・ビンチ号

本多 孝子

ハシエ・クレープオーナーV

七月十一日、ジェノアで憧れのイタリア船レオナルド・ダ・ビンチの前に立つ。四万トン近い堂々たる巨体とスマートな白い船姿はイタリア船ラファエロ・ミケランジェロが既に病院船と化してしまつた今、残るイタリア豪華客船として私が念願し続けたものであつた。

乗船の列に加わると、誰もが期待と嬉しさに頬を染め、知らない同士が顔を見合せて笑顔する。千何百名の乗客は見る間に呑み込まれ、船内で暖かい笑顔のクルー達に迎えられる。

我々グループは男性三名を含む十二名で、いずれもこれらの豪華船のこの上もないぜいたくな楽しさと限らない怠惰に浸ることにとりつかれた船キチばかりである。私の部屋は小じんまりとしたシングルルーム。キャビンスチュワードが挨拶に来て、英語の話せるチップとは日本からの小さなおみや

げのおかげですぐに仲良しになった。今夜はインフォーマルで盛装しなくてもよいとのことだが、イギリス船に慣れたものにとつてはちよつと意外。それでも鼻唄まじりに食事を運んで来る愉快なウェイターと、さすが食好きなイタリアと思わせる豪華な食事を楽しんだ。

翌朝、朝食後船内を散歩。船内にはプールが四つ、バーが三つ、若者のためのダンスホール、ナイトクラブなどがあり、またデッキでは種々のスポーツができる。午後、映画館でイタリア語の「四銃士」を見ていたら、いつの間にか眠ってしまったらしい。いびきがうるさいと友達に注意され失敗、失敗。その夜は船長招待のカクテルパーティ。昼の失敗を挽回せんと日本女性一同着物で盛装。ホールの入口で一人ずつ名前を呼ばれこれもきらびやかな正装の船長を



ダ・ビンチ号でのディナー。中央本多さん。

はじめスマートな着こなしのオフイサーたちに迎えられ握手しつつか会場に入る。和装が珍らしいようでエレガントだとしても好評だった。このパーティ後、イヴニングドレスに着換えS夫人とホールに行き、楽しそうに踊っている人たちを眺めていたら二人の男性が私たちにダンスを申し込んで来た。

こんな場合も、イギリス船の乗客はいつもおしやれをして気取り、ダンスも上手で袖口からレースのハンカチを取り出したりで肩を張った感じだったが、イタリア船はお国柄が家族的で人なつこく誰もがすぐ話しかけて来る。ところがイタリア語の話せない我々は、グラチエしかいえないので、ごめんなさいとばかりすぐ逃げざるを得ない。

イギリス船と比べると、イタリア船の特色はこの人なつこきと食事の量。三度の食事以外に夜の十二時にビュッフェスタイルの夜食が出、深夜の二時にビザバイのサービスがある。残念ながらビザは食べられなかったが、二日置き位にパレルモ、マデラ、ラスパルマス、カサブランカと観光する間におみやげをどっさり買い込んだ。寄港地のすばらしかったことや船内でのアバンチュールなど語り尽くせないが、我家のように思えるダ・ビンチ号をふり返り振り

返り私はクレール・菓子子の勉強にバリに向かった。

## 生活の中の 西洋古物

鉢木伸一郎

▲北野町グランドアンティーク主人▽

過熱気味のアンティークブームは日本ばかりでなく、ここ英国においても骨董屋の数は年々増すばかりで、半年に一度の英国訪問の際には必ず一カ所や二カ所の新しいアンティークマーケットのオープンの案内に気づく。マーケットといっても、通常は四、五十軒の店舗（ストールと呼ばれる）が、一軒につきたたみ半畳から二畳くらいの面積を占めながら、古い大きな建物の中あるいは広場などに軒を連ねているのである。

女王陛下の国、英国は近年とみに世界のアンティークハンターの的になってきており、マーケットに行くと、小規模な国連が引越してきたかと思われる程、いろいろな人種で賑わいを見せている。ア



レイセスタースクエアでの筆者

フリカの奥地から持って来たものであるうか、時代物の硬木の彫刻を両脇にかかえて売り歩いている黒人がいたり、自分の家で不用になった鉄のベッドのフレームを自家用車の屋根に乗せて売っているロンドンっ子がいたりする光景は飽きることがない。

イギリスで、ハンガリーからの移民の若い骨董屋さんに招待を受けた。彼、ペトロコフスキーさんは、古時計が専門で、スイス物のオルゴール入や、トウルビヨンの懐中時計を持っていた。私も彼のコレクションの中から十九世紀末のデジタルの懐中時計などをいくつか分けてもらったことがある。

彼の住居は、ロンドンのキングスロード（彼の店もこの道に面している）の一ブロック裏側のレンガ造りのマンション（七、八十年前に建てられたもので、この時代の建物が林立している）で、共同の廊下に入ると壁には白熱電球のブラケットが灯っており、蛍光灯のあの眼を射るような光ではなく、眼に心地よい明るさを投げかけてくる。各部屋はほとんど電球で明りをとっている。彼の部屋に入ると、年代は判らないが、相当時代を経たマホガニー製の少し猫足の机が置いてあり、デコラ製の机にはつく筈もない引つ掛きキズや凹み、何代もの人が使った歴史を

物語っている。部屋の隅には四、五〇年も昔のニクロム線式の電気ストーブが冬が来るのを待っている。また入口に近い所には一〇〇年近くもセコンドを刻んできた十八世紀のグランドファアザークロックがこちらを見下している。電気時計の追っかけられるような時の刻みとは全く異なり、ゆったりとした振り子の往復は時を忘れさせる。夕食には普段と変わらない料理で気易く接待してくれた。ふと見ると、ナイフとフォークには十九世紀中頃のバーミンガムシルバーのホールマークが読みとれた。ビールを注いでくれた宙吹きゴブレットは、十九世紀のアイリッシュガラスのようで、空のうちにためではじいて硬い金属音を楽しんだ。何気ない生活の中にこれだけの時代物が入り込んでいるのはまことに羨ましい限りである。

英国人の生活が全てこのようだとはい決して思わないが、物を大切にしようとする異常とも思える心が、古い物に対する慈しみとして溶出するのだろうか。このようにして日常生活の中に古い物を持ち込もうとする下地が昔から培われている英国人にとってアンティークとは生活そのものに他ならないのだと今さらながら気付いたものである。

# □ある集いその足あと

## さんちかタウン もぐら会

大内 信行

△マルダイ社長・もぐら前会長▽

さんちかタウンの若い推進力として発足したもぐら会は今年で十一年目を迎え、着実な発展を続けている。

当初、十六名のメンバーでもって「研究と親善」を目標にスタートし、そして現在もその精神を損うことなく、若い人たちの自己研鑽の場として歩みつづけている。

月一回開催される例会では、神



歓談するメンバーたち（ブランドウプランにて）

戸市長や海の女王、大学教授、建築家など、ユニークな先生方を招いて、一般教養的な知識——商売に関するものだけでなく、実際の社会の動きといったことに関する知識をもっとふやしていくことに留意し、自己を磨いていこうという姿勢をもっていることが、長続きしている原因のようである。

メンバーも、セクター街、元町だけでなく、大阪へと拡がり、比較的自分の行動半径以外のところからの情報を得る機会に恵まれている。一つの店のやり方、考え方にこだわらない柔軟性、自分の属しているところの考え方だけでなく時代の先取りの精神を養うことが出来、さらに経済情勢がきびしくなっていくと、こうして培っておいた知識が役に立つわけで、「楽しみの輪を外へ拡げよう」「語り合う精神を培おう」「外への積極的な行動、チャレンジ」をモットーとして歩みつつあり、その毎月の例会でのディスカッションや研修を通じて、それぞれの意識のなかには、石油ショックを機に、もう一度原点に戻ってしっかり考えてゆこうとの姿勢で、よく考えながら行動し、堅実な商いをする時代という実感を待た。

雑談かもしれないが、そんなコミュニケーションの場としてのもぐら会の存在に意味があらう。

## △もぐら会会員▽

尾崎信義△不二屋 391 2 9 3 6

飯田 存△まさ 321 4 5 4 5

芹沢貞雄△セリザワ 391 4 6 2 6

川村博美△中川屋 391 3 7 4 4

白井孝之△アポロ 391 0 3 3 3

上島達司△UCCコーヒージャップ 391 5 6 7 7

田村真一△シンヤクドー 391 1 7 7 8

大内信行△マルダイ 321 4 0 9 3

福田雅樹△バッグの三和 321 4 0 4 4

亀岡信義△カメヤ 391 4 0 4 5

岸野恭久△シンワ 321 5 2 5 4

衣笠悦三△コマツヤ 391 5 2 1 7

橋本輝男△菊秀 391 3 3 5 9

山本登里夫△山勝真珠店 391 4 3 2 5

平田勝年△ひらた 321 6 6 0 0

長沢基夫△ナガサワ 391 4 7 1 3

美田信三△美田 391 8 7 9 8

鳥越 哲△神戸眼鏡院 391 1 8 7 4

三井英雄△ベル 391 3 5 0 8

西 正興△ユーハイムコンフレクト 391 3 5 5 8

下村光治△月堂 391 3 4 5 5

樽谷清太郎△銀水 391 5 6 6 3

山崎倫也△栄弥 391 5 2 3 3

浅岡芳司△福寿し 391 5 4 7 3

牧野 宏△難 391 5 5 5 9

弓削佐一良△神戸地下街 391 4 0 2 4

寺崎繁幸△寺崎食品 221 0 1 6 1

## △OB会員▽

東中弘吉△ベル 391 3 5 0 8

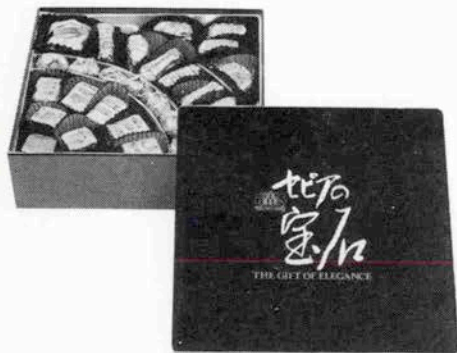
森本泰好△神戸地下街 391 4 0 2 4

久松正良△シンヤクドー 391 1 7 7 8



# 一粒一粒を いとおしむように。 セピアの宝石。

やさしい甘さ——。一粒一粒ていねいにつくりあげたホームメイドチョコレートの逸品ばかりを詰めあわせました。モロゾフが伝統の技術を惜しみなくそそいでつくるチョコレートの宝石。どうぞ、エレガントにエレガントにお贈りください。



¥4,000・¥3,000・¥2,000・¥1,500



き  
も  
の  
と  
細  
貨

おんがら屋

神戸

本部・仕入部 神戸市東灘区青木五丁目一五〇一九 電話〇七八・四五二・五二九〇（代）  
本店 市街地改造により工事中 昭和五十二年未定  
さんちか店 神戸市生田区三宮町一丁目一 電話〇七八・三三三・一七〇〇

東京

銀座コア店 東京都中央区銀座五丁目八二〇 電話 〇三・五七三・五二九八（代）  
（四階きものコア）  
渋谷東急店 東京都渋谷区道玄坂二丁目二四一 電話 〇三・四七七・三四〇九（直）  
（五階和装名家街）  
日本橋東急店 東京都中央区日本橋通一丁目九二 電話 〇三・二二一・〇五一（代）  
（四階和装名家街）  
池袋バルコ店 東京都豊島区南池袋一丁目二八二 電話 〇三・九八七・〇五六一（直）  
（四階きもの小路）

# 馬淵治

吉村 一夫△音楽評論家▽

昭和一ケタの頃、京大音楽部室で、小男ながら目付の鋭い先輩が、新入部員を前にして訓示である。「お前らええ年して未だ童貞やというほどのアホは一人もおらんと思うが、昔からいうやろ△キを見てせざるは勇なきなり▽……」童貞君らは小さくなっていったが、それよりも昔の諺がこれほど切実だとは思わなかった。あとでよく考えて見ると「義を見て」を「機を見て」にすり変えた才覚は凡庸ではない。濁点一つ取ることで古い諺がかくも生きてくるのである。

その怖るべき先輩が馬淵治である。三〇才で工学博士、三十三才で理学博士の学位を取った鬼才である。京都二中の時吹奏楽をやったので、管楽器はなんでもやる。ヴァイオリンも首席奏者の腕前である。手八丁口八手、無敵である。彼が戦中川西機械製作所の技師長として電波兵器に取組んでいた。その頃銀行にいた私は、戦時の波で、銀行ごときは女子と老人で充分である、若い男は兵隊になるか軍需工場で働け、徴用するぞ、と脅かされていた。「徴用逃れにうちに来いよ」の言葉で川西に変わり、まんまと現員徴用となり、まるで徴用されに行つたようなものである。終戦まで

兵庫にある川西機械で爆撃の中を何度か西宮から兵庫まで徒歩で往復したものである。太平洋戦争とともに、防空訓練でバケツリレーをやっている時代に、彼はせせら笑って「爆撃されたら阪神間はたちまち焼野原や、あんな訓練なんにもならへん」と高言してはばからなかった。「それみい、わしのいう通りやろ」と焼野原の前に大得意の彼であった。戦争も末期になって、本土決戦を叫ぶ頃だった。「お前、大学は経済学やろ。そんなら聞くけどなー、俺らが造った兵器を潜水艦や爆撃で海や山に捨ててきよるやろ。すると輪転機を廻してペーパー・マネーを刷って、その紙片と引換えに製品を作らせて、またつぶしたり捨てて逃げてきよる。また紙の札を刷りよる。すると日本の経済ちゅうもんはどないなんねん」とこうである。大体日本の学問はもっとむずかしい言葉でやるものである。子供のように無邪気に聞かれると答えようのないものである。「もっとむずかしい言葉で聞いてくれると、むずかしい言葉で答えられるんやけどなー」と音を上げると「なんでもそうや。電気のことでも誰れでも判るようにいえる人はよっぽどエライ人やからなー」と彼に救われ





後列の右端、ティンパニーの前でホルンを吹いているのが馬淵治。ヴィオラに朝比奈隆、チェロに中村隆、第一ヴァイオリンに筆者の顔がみえる。会場は、今はない旧岡崎公会堂で、ダルマストーブがみえるのも時代を感じさせる。

たことがある。「アメリカは日本のどこへ上陸してきよるやろか」と彼がいうので「判らんけど、日本の真中やから名古屋あたりとちがうか」と答えると、「そんなら岐阜に分工場があるから、お前の部屋も取っというたるからアメリカが来たら家族連れて岐阜に來いや。夜の闇に紛れてアメリカ側に逃げ込んで、少しは英語もしゃべれまっせ、いうたら白いパンぐらい喰わしてくれよるわい。日本側にいると竹槍もたされて、へっぴり腰で行ったら向うも怖いから撃ちよるわ。日本側について命あらへんで」とこうである。強制された愛国心の空しさをこの時ほど感じたことはなかった。

戦後の空白時代、彼は五ヶ国語にのぼる外国語の読み書きができるので、ロシア人からドイツ、

フランスに至る外人の友達から物資を流して貰って悠々としていたが、日本語は「そうけー、ほんまけー」程度の京都弁一本槍である。川西から松下に変わって、頭脳移民第一号として渡米、たちまちロックフェラー研究員の資格を取り、ナショナルとフィリップスを結びつけ、ニューヨークでドクター・マブチは、といえば、尊敬の的であった。△忠臣二君に仕えず△の反対で△よき鳥は樹を選ぶ△の諺に即して、ニューヨークで彼は、ソニーに転身してアメリカのソニーを牛耳って多忙な彼である。一度ニューヨークに彼を訪ねたが、郊外に立派な家を持って上流の暮し向きである。奥さんに「きつねうどん」をご馳走になったことが最も印象に残っている。アメリカ人を叱りどばして働いている彼を見て、内心舌を巻いたものである。日本人とはなんとエライ奴だろうと感心させられた。

朝比奈隆をはじめ、われらの仲間、面と向って是对等に振まっているが、蔭では「マブやんには勝てんなー」と嘆くのである。あの強気一点張の朝比奈ですら「せめてあいつの十分の一でもできたらなー」と弱気をはくのだから驚きである。無数の特許を取り、頭脳だけで地球上どこでも一流の人間として通用する彼に対して劣等感を持つのは当然だが、会えば対等に、背伸びを感じさせないようには振舞うのも一苦労である。彼の令兄も医学博士の大学教授であったことを思うと、彼の頭は血統であって、彼自身の手柄でないと思いたいのだが、鋭い目付の小柄の彼を前にするとそんな考えはたちまちふっ飛んでしまうのは情けないことである。

□れんさいずいそう

# 甲南の変り種

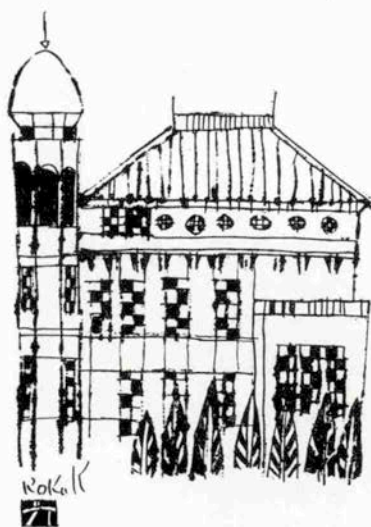
甲南学園と神戸 Λ2V

和田 邦平 Λ甲南大学教授V

え・貝原 六一

甲南では、点数のために生徒を競争させなかった。席次はもちろんつけない。人を押し分けて自分だけ進むというような考えを避けていたので、生徒は自分のベストを尽せばよかった。学内試験は、監督が無くてカンニングはなく、出席簿もなかったが、生徒の行動はすべて先生たちには分かっていたらしい。平生先生の理想とする相互信頼のもとに、先生がたは教育に野心的で、生徒は十分に個性を伸ばした。

甲南中学校（旧制）の第一回入学生のうち、声が大きかったので級長に選ばれた長谷川三郎氏は幼少年期を異人館の多い北野町の、純白なペンキのエキゾチックな洋館に住む神戸っ子であった。スポーツを好み、野球も上手であったが、諏訪山の武徳殿に弓道の稽古に通った。のちに禅に関心



初期の甲南生にとって  
思い出多い二葉荘

をもち、東大で「雪舟研究」の卒論を書きあげると欧米に留学し、とくにアメリカで東洋の精神と西洋の造形とを結びつけ、前衛美術・抽象画の世界にあらたな門戸を開いた「心の画家」の萌芽は新鮮な神戸の風土と甲南在学中の自由な青春に培われた。長谷川家は、平生飢三郎一家と親しくしていたので甲南の教育に憧れ、北野の洋館を芦屋に移すと同時に三郎氏は北野小学校から甲南小学校へ転校した。甲南高等学校（尋常科・高等科）を通じて学校の成績もよかった。クラブ活動は芸術部に属した。高等科進学の年（大正十二年）に油彩を始めるとともに白象会をつくって「大根」「静物（オレンジ）」（甲南学園蔵）など、毎月作品を持ち寄り、批評会を行なう。高二の時、芦屋で近所の小出楯重に師事した。この年「居留地風

景」が大阪市美術協会第一回展(公募)に入選している。昭和三十二年、五十一歳にしてアメリカで客死するまで、長谷川三郎氏は油彩・木版画・拓本・水墨画など三〇〇余点にもものぼる作品をつくった。このうち主要なものは甲南学園に寄贈された。一方、和・英文の著作・評論(二〇〇余編)を公刊している。後年、京都の「転石会」グループの月例会で、三郎氏に初めて会った須田勉太氏(国画会員)は、三郎氏の「禪と抽象における態度」に非常な感銘をうけたと言っている。特異な国際交流の推進者として見直されるひとりであろう。

戦争がすむと、プリンストンが第一に呼んだのが湯川秀樹博士で、その次がカクさんこと角谷静夫博士(現エール大学教授・旧制文六回卒)であった。彼は学校の近くの寄宿舎「甲南寮」から通学したが、弁護士のおとを継がせようとした父の反対のため理科へ進むことができなかった。のちに東北帝大の数学(理学部)へ進学、いま世界的大学者となった。甲南の個性尊重の教育を地で行ったひとりといえよう。角谷氏は、甲南の校技ともいべきラグビー部員であった。ラグビー練習中の短い休憩時間に友だちが「おいカクさん、ここをちょっとやってくれ」と英語の下読みを頼む。彼はそのためによそのクラスのテキストも揃えて持っていたという。寄宿舎では平素は消灯時間を守り、とくに勉強している風もなかったらしいが彼は文科でありながら数学が得意で、授業休み時間に図書室でよく数学の専門書を開いていたのである。毎日のラグビーの練習をやりながら、文科生で数学の勉強を続けるとは何かりゴリゾムの精神みたいなものを堅持していたのだろうと友人た

ちはいままも讃辞を惜しまない。

いまの流行のポケットカメラのはしり、甲南十六ミリの発明者西村雅貴氏(旧制文一四回卒)は生粋の神戸っ子である。父は海岸通りの文化人旅館主として著名な貫一氏で、ある日、子息の成績が悪いとクラス担任に注意され「甲南は個性尊重で、好きなことを伸ばす教育をしてくれると聞いて、息子をお世話になっているのに……」と成績が悪いのは先生のせいとばかり逆に教師を困らせたエピソードが今も語り草になっている。ある時雅貴氏は、甲南高校の写真部の撮影会で神戸の波止場にいる西洋婦人のスナップを無断で撮ったといそう怒られた。これが動機になって、人に気付かれずに写せるカメラをつくってやろうと発心した。タバコのケースほどのカメラを発明した彼は大きな掌に隠し持って、電車の中で向いに坐っている女学生の膝のあたりをパチリとやっては友人に見せびらかしたものである。またある時、リング箱を暗箱にしてピンホールカメラを作った。大坂駅で長時間露出の撮影をしたところ、現像してみると一人だけ写った人物がいる。地面に坐り込んだ物乞いであった。こうして西村雅貴氏の存在が注目を集め、甲南を卒業して京大在学中、戦時下の陸軍中野学校の教官として引っぱられ、スパイ撮影の指導をやらされるはめになった。戦後、昭和二十二年西宮に甲南カメラ研究所を創設し、ミカ・オートマット(小型カメラ)の発明をはじめ、宇宙線観測カメラなど、数々の国際的業績をあげて32年に第一回兵庫県科学賞を受賞、将来を嘱望されながら三十八年(四五歳)で急逝した。惜しまれる甲南の変り種である。





東西落語名人選のタベ（神戸文化ホール）に出演した  
三遊亭圓生師匠を訪ねて

バカに美人に見えたりネ。



バカに美人に見えたり、また不美人に見えるような芸がいいんで……。

★圓生師匠は神戸の街、初めてですか？

圓生 戦後、パレスという名前で、兵庫駅の近くのガードの下に席があったんですよ。そこはね、上に列車が通るとガタガタガタガタ……って、その間喋っても全然聞こえない（笑）。しよやがないから列車が通過するまで

黙っていて、通っちゃってから喋りだす。変なところでした。それでも当時は一回の興行が十日間ぐらいはありましたね。しばらくやってたので、私も二、三度神戸に來たことがあります。神戸には昔から落語のファンがずいぶんいらしたし、席がないってことはまことに残念なことでしたね。今のうちに大きなホールを貸りてやれる

といつても、せいぜい一日か二日にすぎず、長期の興行ができない。それに長期の興行をやるんでしたら、やはりあまり大きくないところで、続けられるところですね。ところが場所のいいところでそんなふうにはやれるっていうと容れ物に莫大なお金がかかっちゃいますよね。だからといって昔のように細い路地の奥で小さい寄席を、なんていうわけにもいきませんよね。そんなことするとソロバンに合わない。だけど神戸も大きな街なんだから、席さえあればお客さんもだんだん増えていくんでしょうけど。

★サンパウロで一席。涙流して笑った日系人。

圓生 こないだ、六月二十日から七月五日まで、ニューヨーク、サンパウロ、リオデジャネイロ、パリと行ったんです。コンコルドに乗りましたよ。あの飛行機、揺れるとかなんとか初めはあまり評判がよくなかったんだそうですけど、揺れも何にもなかったみたい。ただ機内が細いですね。二人ずつ並んで座って真中に通路がある。やはり幅が広いと風をうけて、それだけの速度が出ないんですよ。そうなんだろうと思います(笑)。

リオデジャネイロはきれいでしたね。海岸でしてね、きれいな家がずーっと並んでいるんですよ。海岸にいるのはみんな金持ちばかりで、実にきれい。あそこへ別荘を持つてのが夢なんですってね。ところが、日本では山手のほうに住んでるのが比較的高いクラスだっていうけど、あそこは山の上に住んでいる人たちはあまりよろしくない。いわば貧乏なの。海岸へ行くほど金持ちが多いみたい。非常に街はきれいでして、湖なんかもある。

——お遊びで行かれたのですか。

圓生 まあ遊びですが、サンパウロで落語やりました。とっても感銘してくれましてね。あちらへは初めて落語ってものが行ったんです。たいへん喜んでくれてね。サンパウロ新聞ってのがあって、そこが主催してね、一五〇〇人収容の会場に二三〇〇人が入った。そんなに収容

しきれない。何しろもういっぱいの人で扉は閉まらないし、入れない人たちは隣りの喫煙室に入って、スピーカーを通して声だけ聞こえるって状態。姿はみえないで。それでもいいから入れてくれって。「ただ笑うだけでなく、みんな涙をこぼして笑っていた。嬉しいって」と新聞がいつてた。前の年に若乃花が行ってるんです。親方がむこうで相撲の話をしてるんです。とにかく古い日本人が多勢いる。今は二世、三世ですが、一世となると明治時代の日本人なので、そういう日本の精神が残ってるんですよ。

ニューヨークでは、ミュージカルってんですか、見ましたよ。パリではムーランルージュとそれからもうひとつ、何だか忘れましたが、見ましたよ。大変なもんですね。大きな大きな水槽があつてね、中に女の人が入ってるんです。その中に大きなイルカが五、六匹一緒に入つてね。で、女の人が外へ出てイルカに芸をさせたり水槽の中に入つて一緒に泳いだり。そりやもう大変(笑)。

★あんまりお酒が美味しいから  
東京へ帰れなくなっちゃう。

圓生 お酒？ えー、嫌いではありません(笑)。少しはいけますよ。いえ本当に少し(笑)。二合か三合くらい。ウイスキーよりも日本酒のほうが美味しいですね。日本酒のほうがお料理が何でもいただけますしね。ウイスキーってのは、お肴がありませんね。チーズとかチョコレートとか決つていますでしょ。ウイスキーはね、果物で飲むのが一番美味しいんですよ。今頃なら白桃なんかが最も結構ですね。白桃をカジリますでしょ、するととっても甘いんですね。そこへウイスキーをついで、生で飲むんですよ。それが一番美味しいんですよ。強いお酒を生で飲みますと、我々は声をいためて、どうしてもノドをからします。そうすると声がかすれたり、いたんだりしちゃうんですよ。なにしろ火の酒ですから。でも本当はウイスキーってものは、水割り

で飲むのは美味しくないでしょ。やっぱり生のまま、ストリートで飲んで、あとで水を飲むってのが美味しいんですよ。だからその水のかわりに果物にするんですよ。甘い汁が出ますでしょ、それでノドをいためるってことがないんですね。だけどやっぱり日本酒がいいですね。昔ね、東京の噺家が大阪へ来るとね、お酒の好きな連中は東京へ帰れなくなっちゃやう。あんまりお酒が美味しいから。お酒に惚れ込んじゃってね。昔、大阪の天王寺の兄弟弟子のところに泊った時、菊正宗を飲んだんですよ。その家がお茶屋をしてね、どれくらい飲むかって聞く



上は「死神」を一席。



「野ざらし」から一筆。

んで、寝る前に二合くらい飲むっていったんです。すると樽酒でもって二本飲ませてくれた。一口飲むと美味いんですね。飲んだのは良かったのですが、ひどく酔ったのかと思うぐらいにフラフラするんですよ。二階に床が用意してあるっていうから、二階まで上って行ってそこにフトンが敷いてあるなと思ってそのそばまで行ったのは知ってるんですがね(笑)。気がついたら朝の七時。つまり、こくのある酒とこくのない酒とちがうわけですよ。全然利き方がちがうみたいなんです。東京で二本飲めてもこちらへ来て二本飲んだんじゃ多過ぎる。(笑)利きが良すぎますよ(笑)。その時なるほどなっ

たくなくなるよって。いいお酒だなんて思いましたよ。★芸でも何でもあんまりキッチリはいけませんね。

圓生 美人は落語にはあまり出てきませんね。出てくるのは変な女の方が多くですよ(笑)。色気のある女性を落語で表現するのは非常にむづかしいんですよ。やたら科(か)をつくってやりますと、聞いているほうにはとてもいやらしく感じますし、といってあんまりパサパサってやると女にみえないし(笑)。そこにいるにえない女のやさしさとかみたくないものを出すのは、ことばだけでなく身体ですね。それはやはり日本舞踊が基本ですね。どういうふうに着を引いたらとか、落としたらとか。しかも我々は上半身だけで、その上衣装もなしで表現しなくちゃなりませんね。

女の人でも始終美人だったのと、非常に美人にみえたはずなのに今度みたらひどくてね……(笑)ひどい女だなんてふうにいるいろいろ変わる人がいるんですね。その時その場によって。岸田今日子さんなどはね。映画でも、角度によってばかに美人にみえたかと思うと、何だかだらけちゃって変な顔にみえたりね。だけどそういうほうがおもしろい。だから、芸でも何でも、あまりにキチツと落度なくいつ聞いても同じでもって大変整っているってのは、いいようできて、逆におもしろくなっちゃやうですよ。

大阪と東京という土地柄で美人もちがいますか。圓生 ちがいますね。ことばからして関西のほうがやさしいですよ。ことばが荒っぽいってことはないけど、関東のほうがちょっとやわらかさがないかもしれない。だけどそれはそれでいいんです。京都のことばなんてやさしくてわからない。口説いてもね、断われたのか断われなかったのかわからないようなね(笑)。およしなさい、っていわないでしょ、およしやすっていうでしょ。ひじょうにやわらかいから、本当にいやなのかどうなのかわからない(笑)。

△神戸文化ホール楽屋にて▽



MAKE UP WITH ROYAL

爽涼の秋に備えて  
欧風調のタウングラスを  
コレクトしてみました



 神戸眼鏡院

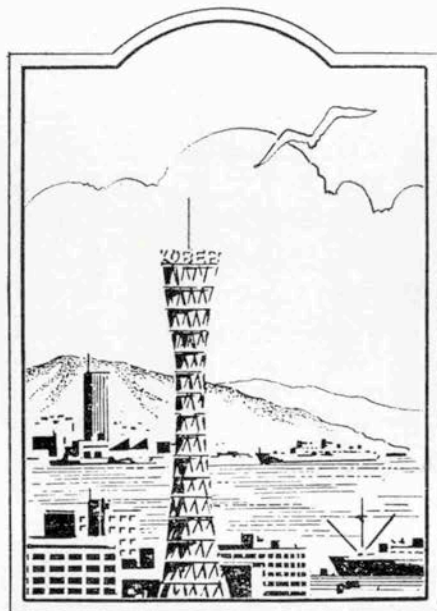
元町店・元町3丁目 ☎(321)1212代表

三宮店・さんちかタウン ☎(391)1874~5

元町店は毎水曜日が休みです

三宮店は第2、第3水曜日が休みです

マイ神戸、マイホテル



潮風が詩い、ファッションが踊る。ミナト町  
神戸のロマンチックな思い出は、神戸タワー  
サイドホテルから———エコノミカルな料金  
システムや、神戸を代表するシーサイドレス  
トランで楽しめるヨーロッパの味。あなたの  
旅のいち日を、心をこめてお迎えいたします。  
シングル¥2,500—¥3,800 ツイン¥6,000 ダブル¥6,800



神戸タワーサイドホテル

〒650 神戸市生田区波止場町1  
TEL (078)351-2151(代)

□座談会

# 洋菓子は神戸文化の バロメーター

「メイド・イン・コウベ」の洋菓子をつくる

吉川 進

△神戸鳳月堂社長▽

河本 春男

△関ユーハイム社長▽

光葉 貞夫

△ゴンチャロフ製菓関社長▽

松宮 隆男

△モロゾフ製菓営業部長▽

立川 豊喜

△ドンク製菓神戸事業本部長▽

★外人がつくった神戸の洋菓子

本誌が発刊当初から探究しつづけてきたものが、「神戸らしさ」の文化の発掘であった。文化を即生活とみると、神戸に住む人々のライフ・スタイルこそ、神戸文化である。この神戸らしさを、さらに彩り、楽しくしていくことは、まさに「文化開発」そのものではなからうか。

「ファッション都市・神戸」はそのような環境のなかで息づいている。

そこで、ファッション都市・神戸の本質的な理解——神戸らしさの開発の一助にと、キャンペーンを繰りひろげることが、本シリーズの趣旨である。

今回は洋菓子業界の方々にお集まりいただき、神戸の洋菓子の成り立ち、現状における諸問題点——職人養成など、さらに、ファッション都市づくりとどう取り組むかについてお話をお願いした。

吉川 神戸がファッション都市をめざして動き始めてからもう四年ぐらいになりますが、ファッションという衣類がどうも中心のようですが、ファッションを「生活文化」と考えれば当然衣食住が入り、その中には洋菓子も入ってきます。戦後の神戸の洋菓子の伸長率は他の産業にくらべても断然トップです。兵庫県の重要産物といわれる豊岡の柳行李や鞆、三木の金物、小野のソロバン、神戸のケミカルシューズなどに比べても神戸の洋菓子というのは群を抜いていると私は思いますね。

河本 エリーゼ・ユーハイムから聞いた話ですと、大正八年ごろにはバターをつかったものはバター臭いといって日本人は食べなかったそうですね。大正十二年にエリーゼ・ユーハイムは横浜に店を構えたんですが震災でペチヤンコになり、避難船のついでに連れてこられたのが神戸



吉川 進さん

だった。神戸で店を開いて売り出したお菓子がずいぶん売れ、クリスマスにはあの頃のお金で百円分も売れたというから大したものです。神戸の人たちには東京の人たちにくらべてその頃にすでに洋菓子に対する嗜好があり神戸っ子にかわいがられてぐんぐん発展し、その頃の文学にも登場するようになった。神戸には当時でも四十数カ国の外人が住んでおり、洋菓子に愛着をもっていたようです。海と山に囲まれた土地の風土が洋菓子に合っていた、ということ、なるほどと思いましたね。

光葉 ゴンチャロフの創設者はマカロフ・エム・ゴンチヤロフという白系ロシア人です。満州のハルビンにチョコレイトをはじめ洋菓子、レストラン、喫茶を経営する会社があり、そのチョコレイト部門の技師長がゴンチヤロフで、大正十一年に神戸に来て日本人と協力して店をはじめたんです。神戸が港町であり、外人がたくさんいたということが洋菓子の育つ土壌となったようですね。

立川 外人が多かったことと、当時としては感覚的に進んだ人たちが多くおられたこと、さらに洋菓子界を創設された人たちの力が大きかったことなどが今日の神戸の洋菓子の発展を築きあげてきたんでしょうね。

吉川 私の方は東京の風月堂の暖簾を頂戴してやりはじめたのが明治三十年です。大正のはじめ頃には洋菓子を自分でも食べてましたし、どんなものがあつたかおぼえています。シュークリームやケーキ、ビスケット、チョコ

コレイト、マロングラッセなど当時すでにありました。外人がはじめたところに神戸で洋菓子が生まれ、発展した一つの特徴がありますね。戦前は従業員三十人以上の洋菓子の店というのはほとんどなかったと思いますが、それが戦後になると従業員の数は十五倍以上に伸びています。政府や行政の援助なしに民間の力でこれだけ伸びてきているわけです。神戸の菓子業界がこれだけ伸びたというのはいい人材というか、サムライがそろってたんです。それに神戸にいたんでは食っていけないので地方巡業をしてまわった。結局それが神戸の洋菓子の知名度を全国的にひろめることにもなったわけですね。

光葉 お菓子というものを全国的にみたら、神戸は洋菓子、京都は和菓子、名古屋は駄菓子というように風土とお菓子というのは切ってもきれない関係にある。神戸で高級品の洋菓子が伸びたというのは食生活やセンスの水準が高かったということでしょうね。

吉川 それはやはり神戸に外人がたくさん住んでいたことが原因ですね。

河本 瀬戸内海をひかえて魚も大変おいしいという味覚と洋菓子とは相通つる所があるように思いますね。いいものをつくるということにつながっていく土壌が神戸にあったんです。人と風土にめぐまれて神戸の洋菓子は育ってきたんだと思います。

松宮 神戸は昔から外人人がたくさん住んでいて、外人の生活から影響を受けて洋風化傾向が早く出ていたことから洋菓子も発展して来たんですね。それと、割合に地方から来た人が多かったので、因習などがなくて、それで自分に快適な生活をやって行こうという明るさみたいなものがありますね。そういう新しがり屋という気風が当時の新しいお菓子だった洋菓子を推進したと思いますね。戦後、神戸の洋菓子屋は全国で実力を伸ばしてきましたけれど、品質のいいものをつくるのだという企業の基本姿勢は特に神戸には強いと思いますね。業者同士が集団をなして何かに対していくという商売はしませんね





河本 春男さん

自分のところで作っている商品が一番なんだという意識が強いんですね。神戸の洋菓子メーカーの一つのあり方ですね。商品中心、品質第一主義みたいなところを各メーカーが持っている。商売の基本はそこにおかれていると思いますね。一つの特徴です。

#### ★菓子職人に国家試験を

光葉 私の所で神戸のイメージ調査をしましたところ、一般の方々は神戸という「港」「海」「エキゾチック」といういいイメージがありますので洋菓子メーカーは神戸という名前をフルに使った方がいいでしょうね。ところで神戸のパンの消費量というのは日本一だそうですね。

立川 そうらしいですね。うちは東京では「ドンクのパ



光葉 貞夫さん

ン」ということになっていて、時々「あつ、ドンクさんはお菓子もつくっておられるんですか」といわれる(笑)河本 地方へ出ても洋菓子に対する嗜好というものはそんなに差がないようですね。

光葉 十五年ぐらい前には広島、福岡、金沢のような地方の県庁所在地などの中小都市へいってもおいしい洋菓子というのはあまりなかったようですね。この頃はありますけれども。そういうことを考えると神戸はずい分進んできましたね。

松宮 神戸には水準の高い洋菓子屋の数が他都市に比べてたくさんありますし、しかも、いいパン屋も多いので神戸の人の選択は厳しいですね。口がこえているんですね。それとこれは神戸だけじゃないのですが、あまり甘くなくて、ソフトであるという嗜好の傾向が強くなっていきますが、大人の味覚に耐えるお菓子がよそよりも神戸の方が売れるんじゃないかと思えますね。神戸で売ればよそでも売れるということからテストマーケットとしても非常にいい町ですね。

河本 全国的にレベルがそろってきたのはまだほんの最近ですからね。どこに行っても遜色がなくなってきた。これからは規模のメリットを追求すると同時に菓子屋の原点に帰るということも大事なことでこの両方を両立させていくことは仲々むずかしいでしょうね。

吉川 個々の店で勉強しながら努力していくことと、みんなで共同して力を合わせてやっていくべきことと両方考えておく必要がある。全国的にレベルが上ってきて神戸に追いつきつつあるということ、不況ムードの中では今までと同じようにやっていたのでは頭を打つだろうということが懸案ですね。

河本 菓子屋はちよつと技術があれば素人でもすぐできるようなってきていますね。ちよつと腕があれば店をもつて生計をたてるぐらいには困らない。そういう個人のお店が結構重宝がられていますし、そういう所では売れたらすぐつくれるからできたての新しいお菓子をお客



松宮 隆男さん

さまに売ることができる。これからはそういう個人のお店がどんどんできてくるような気がしますね。

立川 消費者としては家でおやつに食べる分は近くのお菓子屋さんで買い、ちよつとおつかい物にするには名前の通った所のもの、というふうに使分けをされているようです。

吉川 みんなでいっしょにやっていくものについては神戸の今までのイメージを落さないようにしなければいけないし、各自が少しでもいいものをつくるよう努力しなければなりません。

河本 人間の味覚というものは修練すればある程度進むものです。神戸の職人が味覚について大変デリケートなものをもっているということは大きな強みです。結局はいい原料を十分に生かす技術をしっかりと身につけて



立川 豊喜さん

いくことが大事ですね。ところが今は原料そのものが菓子をづくりやすいようになっていて、あまり技術を要しなくてもある程度の菓子がつくれるようになってくる。これはまずいことです。プロの菓子職人は純正の原料がもっている本当の味を十分だせるよう修練をつんで鍛えていくことが大切なんです。

吉川 今までがあんまり楽すぎたんです。

河本 海外とくらべると非常な違いができてるんです。

立川 どの菓子も画一的でそれぞれの個性がなくなってしまうですね。

河本 東京の学校では訓練をして製菓師の資格を与えるということをやっていますが、もっと徹底して国の資格を必要とすべきです。菓子屋は誰でも開けるというようなバカなことではないですよ。たとえばドイツではマイスターの資格がないと絶対に店を開けないんです。そのためには少くとも十年は菓子屋でしっかり修業をして国家試験を受け、それに通ってはじめて菓子屋を開くことができます、そのぐらいの厳しさがあっていいと私は思います。国や県・市としてもそのぐらいのことは考えてほしいものです。私のところは今年からユー・ハイムのマイスター制度を始めてるんです。国がやらずに民間だけに任せているので従業員がなかなか本物にならない。これではいかんです。

松宮 職人の水準を上げるために、うちの社長がよくいうんですが、製菓学校、それもカレッジぐらいの程度でたとえば高校を卒業した人が二年か三年で専門技術を覚えろという権威のある学校で、それを卒業したら菓子屋としての資格が得られるという学校をつくり、全国のお菓子屋の二世は神戸の洋菓子学校へ来るというようにしたいですね。さらに、ここでは、技術だけではなくて、経営面からも総合的に業界のしつかりとしたビジネスマンをつくるようにしたいですね。技術水準向上のための一つの起爆剤になるのじゃないかと思っています。



★「身体のためにいいからおいしい」というお菓子の哲学

吉川 洋菓子というのは何といっても外国が家元ですが外国には追いつけないのか、それとも外国よりもいいものがつくれるのかどうか、そのへんはどうでしょうな。

光葉 チョコレートに関しては技術的な面では外国に負けないと思いますが原料が問題ですね。

吉川 それは大事なことですな。

光葉 外国の優れているのは原料の乳製品がよいことと、安いことです。原料がむこうではふんだんに使えるというハンディキャップを除けば遜色はないですよ。

河本 技術的には劣らないですよ。味覚はむしろ日本人の方がすぐれていますから、問題は原料ですね。

立川 「いい菓子とは何か」ということです。ヨーロッパのお菓子というのは食事の中のお菓子として育ってきただけですが、日本のお菓子はおやつですね。だから必然的に味も違ってくる。

河本 菓子というのは夢のある食品ですから、文化が進めば進むほど珍重がられる。菓子は文化のひとつのパロメーターとっていいと思います。ドイツでは食事の一部分として栄養補給として考えられてますからリッチなものが多い。

エリーゼ・ユーハイムから以前こんなことを聞いて私は大変感銘を受けたことがあります。私は前にエリーゼ・ユーハイムといっしょに住んでいたんですが、ある朝私を呼んでサンドイッチを作ってくれたんですが、そのパンがとても固いんです。そのパンは初めから固いんでなくて買ってきてから三日ほど置いてあったので固くなっているんです。それで私が、「ユーハイムさん、どうしてこんなに固くなってから食べるんですか」とたずねると彼女は「身体のためにいいんですよ」というわけですよ。「身体のためにいいんですよ」といわれた時、ウーン、と思いましたね。外人の一つの考え方は「身体のためにいいからおいしい」という考え方を徹底して物

をつくったり、食べたりするんですね。日本人の発想は身体のためになるということよりも、「おいしいから食べる」ということでまったく逆ですね。そのへんの考え方の違いが、日本人の菓子をつくる気持と外国の人が菓子をつくる気持とに出て来るんですね。彼らは「身体のためにいい」ということをしっかり頭においてつくっている。それをはっきり頭に入れておかないと添加物の問題などで食品として好ましくない問題が出てくると思います。

日本人のように「おいしいければ身体のためになる」ということだったらどこから何をもってきて何をたべてもいいということになります。が、「身体のためにいいからおいしい」という考え方だとそうはいかないですね。

松宮 最近いわれてます食品公害の問題とか過剰包装の問題とか消費者からの要請が強くなってきていますからそういうことにも正しい姿勢で対応して行くことが必要ですね。ただ、過剰包装一つにしても楽しい商品づくりとの接点が難しいですね。我々としては適当な機能はどこにあるのかをしっかりと考えていかないと消費者から見離されるし、一方、楽しさをつくって行くことも大切ですし、この辺を考えて適切に商品計画をして行くことが必要ですね。

# ★洋菓子を「メイド・イン・コウベ」の看板に

吉川 これからは日本中及び世界に対して神戸の中心産業は洋菓子だ、というぐらいの気持で考えていかないとだめだと思いますよ。地方から神戸へ来るとかならず洋菓子を買って帰ってもらうようにしたいし、洋菓子があるから神戸へ行くんだというぐらいの実績をつんで、これからもうんと伸ばしていきたいものですな。

そして今までは民間の力だけでやってきたんですが、今後は市も一肌ぬいで神戸の洋菓子のために大いに経済的な援助をしてもらいたいですね。

河本 私は、人間の健康のためにどうあるべきかという



ことを洋菓子だけでなく食品産業全体でもう一度真剣に考える必要があると思いますね。特に、食品の原材料すべては物質なんです、あらゆる動物が食糧とすべきものは生命体でなくてはならないことなんです。ところが今まではレファインされたものが上等なんだという考え方があり、米でも麦でも砂糖でも白いものがいいものだという考えが大変強かった。しかしこれからは生命体を使った菓子をいかにするかという根本問題を考えていくことが、洋菓子のリーダーである神戸がとくむべき大切な問題だと思いますね。市民なり国民なりの意識を変えていかなければ解決しない大変難しい問題です吉川 それは考えていかないといけませんね。しかし、私は戦争の体験がありますから考えるんですが戦争がはじまると菓子というものはぜいたく品だといって一番はじめに統制を受けたもんです。今は平和な時だからいいけど、また戦争がはじまったりするようなことになると同じことがくりかえされる。しかし、健康食品としてのしっかりしたものがあれば、どんな時代が来ても人間の健康にはいいものだということで生きのびていけます。

河本 今は加工食品が大変発達してきましたが、加工食品たるや不健康食品という傾向が非常に強い。これは食品メーカーはもちろんのこと、行政も消費者も共に考えなければならぬ段階にきていると私は思いますね。

吉川 それも大事なことの一つですが、食品というものは強制的に菓を飲ますようなわけにはいかんのでやはりうまい、という味の問題も大切ですね。それとこれは和菓子を手本にすべきことで、洋菓子は非常に劣っていることがひとつある。それは和菓子の文化程度というものは非常に高く、和菓子は四季の移り変りにしたがってかならず変わるもんです。それに、行事によっても変わってくる。昔の人はこういうふうな消費の条件とか需要というものをつくっていったが、洋菓子にはせいせいバレンタインデーとかクリスマスしかない。神戸の菓子屋さんは

もっと洋菓子の需要を喚起するようなことを考えていかないとしたら。神戸のメーカーは「メイド・イン・コウベ」のいい菓子をくり出していかないといけないですね。「メイド・イン・コウベ」という神戸の土地に根づいた産業として、洋菓子は決してはずかしくないものだし、六大都市の中でも神戸の洋菓子というものはかなり高く評価されています。メイド・イン・コウベの名に値する産業を育てていくということはファッショ都市づくりにおいて大事なことでないかと思えますね。「神戸の何々」ということをいたるところでこれからは出していかないとダメだと思います。

#### ★ファッショ空間の設定を

松宮 これからのファッショ都市づくりのなかで、洋菓子メーカーが何をしなければならないかを考えますと一つは、商品の水準を今後とも上げて行くことです。生活感覚も変化して行きますし、生活のパターンも少しずつ変わって来ますね。ニューファミリーとか最近よくいわれていますが、感覚が変わってきていますから、お菓子を食べる場所なんかも違ってくるのじゃないか。たとえば、パーティーが開かれたり、ミートイングがあったりで、アウトドアの生活が多くなるとか色々あると思いますね。だから、どのときに食べてもらうお菓子かということが商品計画上、問題になって来ますね。生活文化を総称してファッションというならば、そういうなかで楽しんで食べてもらうお菓子づくりが必要ですね。

私どもではコーヒーストップを全国で三十軒ほどやっています、ショッピングをしながらのひとときに、お茶を飲んでケーキを食べるといったことは一つの生活行動ですから、ファッションといえるんじゃないかと、そのときに今までの喫茶店という概念から少し外れて、もっとお客さまに喜んでいただくための店づくりということも考えているわけです。一つの空間をつくるという考え方で、どういう空間がいいんだろうかということを考えて

行かなければいけないと思いますね。

神戸の洋菓子全体としてはお互いに競争関係ではあるんですが、他の都市に対して、神戸の洋菓子はいいんだということ、品質の向上を計りながらPRして行くことを、一つの活動として考えなければいけないですね。

吉川社長が「メイド・イン・コウベ」ということをおっしゃいましたが、そういう感覚でお互いにPRして行く。神戸に行ったら、おいしいお菓子がたくさん売っているよという神戸の一つの特色になるぐらいに我々としては努力して行きたいですね。私のイメージとしては緑が多くて、歩きやすく、非常にいいブティックがあったり、ショッピングにもよくて、プラザがあつてひと休みできる。そういうなかにセンスのいいお菓子屋が点在しているというファッション都市のなかでこそ我々の商売が機能できるということじゃないかと思っています。

光葉 ファッション都市神戸を基盤にした洋菓子というものを考えてみますと、よい土壌があつてはじめて良い木が育つわけですから、よい産業が育つにはよい土壌——よい生活文化が必要だということはいえると思いますね。神戸らしさということはいろんな角度からいろんな人がいますが、それらの原点になるものはやはり私は、神戸に外人がたくさん住んでいたからだと思いますね。ですから神戸らしい土壌をもつと育てていくということは、外人をもつと優遇する政策が必要なんじゃないかと思いますね。外人の方々にとって住みやすく、得な神戸にしていけることが大切で、その土壌の中から豊かな神戸らしい産業が育つてくると思いますね。

立川 メーカーだけがいいものと思つてもこれが受け入れられないと何にもならないので、市民総ぐるみでとりむ必要がありますね。

吉川 そうするにはどうしたらいいかといいますと、神戸百三十万市民の収入や生活程度がもっとあがらないかんです。生活程度が低いと企業は神戸でめしが食つていけないので外の地方へ出ていくことになる。洋菓子

というのは何といつても市民のみなさんに買つていただかないとやっていけないので、買つていただくためには神戸市民の生活が豊かになっていくことが必要ですよ。立川 神戸の経済基盤をいかにして築くかという大きな問題にもつながってきますね。

吉川 文化レベルもあがらないかんしね。我々は文化の水準にくつついていく商売ですからね。(笑)

松宮 ファッション都市神戸というものが完成したら企業にとつてメリットがあるのだ、将来ファッション都市が出来上つたらそれが約束されているのだという幻影を抱きながら色んなことが進んでいるようですね。神戸の町は楽しい町で、居心地がよくて、住んでいる人は神戸の町に誇りをもつていて、他の地方からたくさん人が集つて来て下さるような神戸をつくらうというのがファッション都市神戸のテーマじゃないかと思っていますね。楽しい町、居心地のいい町をつくり出すにはどうしたらいいんだらうかを考え、道も歩きやすくして、人間中心の再開発をやつて行く必要があるんじゃないですか。ファッション都市神戸が出来たから個々の企業の将来が約束される、というのではないんじゃないかという気がしますね。企業の存続は提供する商品とサービスによってお客さまが約束して下さるんですから、ファッション都市神戸イコール企業の繁栄につながり、自分のところのメリットのみを考えるというのではダメですね。居心地のいい町をつくらうという発想をもつて業者としてできることはやつて行くことが必要だと思います。店先を綺麗な花で飾るとか、ゴミが落ちてないとか、クルマと人の歩くところが区分されていて非常に歩きやすいとか、緑が多いとか、よその町とは違うところを推し進め、神戸へ来て下さったお客さまにおいしいお菓子を買つていただいて、また、お菓子を食べながら静かにお茶を飲んでいただくというような空間を設定して行くことがファッション都市神戸へ参画する我々の角度でしょうね。

(神戸国際ホテルにて)

### ウシオ工業㈱

取締役社長 牛尾 吉 朗  
神戸市葺合区浜辺通 5 丁目 2 の 1  
神戸商工貿易センタービル 18 F  
TEL (078) 251-1651 (代)

### 田崎真珠㈱

取締役社長 田 崎 俊 作  
神戸市葺合区旗塚通 6 の 3 の 10  
TEL (078) 231-3321

### オールスタイル㈱

取締役社長 川 上 勉  
神戸市生田区伊藤町 121  
TEL (078) 321-2111

### ㈱ワールド

会長 木 口 衛  
神戸市葺合区八幡通 3 丁目 1 の 12  
TEL (078) 251-5311

### カネボウベルエイシー㈱

取締役社長 稲 岡 必 三  
神戸市生田区三宮町 1 丁目 43 番地  
TEL (078) 392-2101

### ㈱ベ ニ ヤ

取締役社長 松 谷 富士男  
神戸市生田区三宮町 1 丁目 54  
TEL (078) 332-3155

### モロゾフ㈱

取締役社長 葛 野 友太郎  
神戸市東灘区御影本町 6 丁目 11 番 19 号  
TEL (078) 851-1594

### 入 船㈱

取締役社長 小 泉 進 吉  
神戸市灘区新在家北町 1 丁目 1-19  
(阪神電鉄新在家南) ブリコビル 3 F  
TEL (078) 851-3191

### 神戸地下街㈱

さんちかタウン・サンこうべ  
神戸市生田区三宮町 1 丁目 1  
交通センタービル 8 F  
TEL (078) 391-4024 (代)



キャンペーン「ファッション都市神戸を考える」の  
企画は以上9社の提供によるものです。